

欠落

欠落

◇機能

《欠落》は、順番に並んでいるデータの欠落を検出する機能です。《欠落》の結果は、テーブルに出力することも可能です。

連続番号が振られるシステムの場合に、番号の欠落がないか調べることができます。

◇メニュー

《分析》-《欠落》

◇設定内容

The screenshot shows the '欠落' (Missing) settings window. It includes the following elements:

- 1**: テーブル名 (Table Name) field containing '070_欠落_A000'.
- 2**: 欠落フィールド (Missing Field) label.
- 3**: 検査タイプ (Check Type) dropdown menu set to '欠落項目の列挙' (List of missing items).
- 4**: 欠落項目の最大数 (Maximum number of missing items) input field set to '5'.
- 5**: IF条件 (IF Condition) input field.
- 6**: 出力先 (Output Destination) radio buttons for '画面' (Screen) and 'テーブル' (Table).
- 7**: 保存先 (Save Destination) input field.
- 8**: キャンセル (Cancel) button.
- 9**: 実行 (Execute) button.
- 10**: A field for additional settings or output options.

フィールド名	データ型
伝票番号	C
日付	D
金額	N

1. テーブル名 : 操作の対象となっているテーブルが表示されます。

2. 欠落フィールド (必須)

: 欠落を検索するフィールドを指定します。

- 一つのフィールドのみ指定できます。(複数のフィールドを選択することはできません。)

3. 検査タイプ (必須)

: 欠落を検査する方法を選択します。

- ギャップ幅の列挙: ギャップの開始と終了、ギャップ内の欠落項目の数を出力します。

	伝票番号	日付	金額
1	10001	2024/10/01	400
2	10002	2024/10/01	600
3	10007	2024/10/01	500
4	10008	2024/10/01	700
5	10009	2024/10/01	800

←伝票番号00003~00006が欠落している。



「伝票番号」を欠落フィールドに指定し《欠落》を実行

ギャップ開始 除く	ギャップ終了 除く	欠落項目の数
10002	10007	4

- 欠落項目の列挙: ギャップ内の個々の欠落項目を一覧表示します。

	伝票番号	日付	金額
1	10001	2024/10/01	400
2	10002	2024/10/01	600
3	10007	2024/10/01	500
4	10008	2024/10/01	700
5	10009	2024/10/01	800

←伝票番号10003~10006が欠落している。



「伝票番号」を欠落フィールドに指定し《欠落》を実行

伝票番号	ギャップ開始 含める	ギャップ開始 含める	欠落項目の数
10003			1
10004			1
10005			1
10006			1

4. 欠落項目の最大数 (検査タイプが「欠落項目の列挙」の場合必須)

: 各ギャップで出力する欠落項目の最大数を指定します。

- 制限を超えると、欠落項目は範囲として出力されます。

	伝票番号	日付	金額
1	10001	2024/10/01	400
2	10002	2024/10/01	600
3	10015	2024/10/01	500
4	10016	2024/10/01	700
5	10017	2024/10/01	800

←伝票番号00003~00014が欠落している。



「伝票番号」を欠落フィールドに指定
検査タイプは「欠落項目の列挙」を選択
欠落項目の最大数は5を指定

伝票番号	ギャップ開始 含める	ギャップ開始 含める	欠落項目の数
	10003	10014	12

5. IF条件（任意） : 抽出条件を設定する場合は、「IF条件」に条件式を入力します。
6. 《式ビルダー》アイコン : 「IF条件」の条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。
7. 出力先（必須） : 実行結果の出力先を選択します。デフォルトは、「画面」が選択されています。
 - 画面 : 実行結果を画面に表示します。
 - テーブル : 実行結果を新規テーブルに出力します。
8. 保存先（出力先が「テーブル」の場合は必須） : 実行結果の出力先となる新規テーブル名を入力します。
 - テーブル名の長さは、64文字までです。
 - 「出力先」で「画面」を選択した場合は、入力できません。
 - ファイルの保存先は、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダです。
 - 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。
9. 《実行》ボタン : 実行します。
10. 《キャンセル》ボタン : 実行せず画面を閉じます。

◇ 実行結果の表示

- 画面出力の場合（欠落項目の列挙を選択）

日時: 2024/10/18 14:59:10
 テーブル: 070 欠落 A000
 コマンド: GAPS ON FIELD [伝票番号] MISSING 5 TO SCREEN
 欠落検査: 23 個の欠落項目があります。

	伝票番号	ギャップ開始_含める	ギャップ終了_含める	欠落項目の数
1	8			1
2		36	45	10
3	65			1
4	78			1
5	80			1
6	111			1

欠落しているレコードが表示されます
 欠落項目の数が欠落項目の最大数を超えるとギャップ幅に表示されます

- テーブル出力の場合（欠落項目の列挙を選択）

	伝票番号	ギャップ開始_含める	ギャップ終了_含める	欠落項目の数
1	8			1
2		36	45	10
3	65			1
4	78			1
5	80			1
6	111			1

◇ 操作ログ

GAPS ON FIELD [欠落フィールド] 検査タイプ IF 条件式 TO 出力先

※検査タイプは「検査タイプ」の選択により、記述が変わります。

検査タイプ	ログ
「ギャップ幅の列挙」を選択した場合	なし
「欠落項目の列挙」を選択した場合	MISSING n (欠落項目の最大数)

※「IF条件」を設定した場合は、IF条件式が記述されます。

※出力先は、「出力先」の選択により、記述が変わります。

出力先	ログ
「画面」を選択した場合	SCREEN
「テーブル」を選択した場合	“(サブフォルダ名)¥新規テーブル名”